

踏み跡 <My Mountains>

| | | |
|----|---------------------|--------|
| 駿河 | 由比から浜石岳と薩埵峠(さったとうげ) | No.275 |
|----|---------------------|--------|

静岡県に生まれたが、静岡県の山としてはまだまだ歩いていない山が沢山ある。特に真富士山・竜爪山・浜石岳など冬に富士山を眺めるのに最適の山が目白押しであることに着目した。しかし、静岡県の山（特に富士川以西の山）の中には、内陸に入っているため交通の便が問題となる山も少なくない。
 浜石岳は東海道線から直に登ることができる便利な山なので、手始めに出かけて見ようと思い、このところ千葉・茨城の山に同行している大久保君を誘った。

平成9年2月15日
 自宅を4時50分に出発。天気は快晴、新検見川の駐車場に車を置いて5時12分の電車で東京駅へ。
 東京駅へは6時10分に到着。やや早く着き過ぎたのでコーヒーを飲んで時間を潰し、6時35分の新幹線に乗車。ホットドッグと紅茶を買って車内で朝食。
 三島で東海道線に乗り換えて油比着は8時25分。水は青少年野外センターで汲むことにして、身支度を确认后8時35分に出発。しばらくは海拔15mの旧国道を歩き、標識の案内に従って青少年野外センターへの道に入る。道はやがてみかん山の間をグングン上がって行くようになり、快晴の空の下、二月とも思えぬ暑さ。
 青少年野外センターキャンプ場に着了いたら事件が待ち受



けていた。水道の蛇口に「冬期間は断水」と表示されているのではないか。しかたがないので自動販売機を見つけてお茶を三缶買って水筒に詰めた。歩き始めると路傍にゼンマイが沢山、さすがにここは駿河の山あい。浜石岳(707.4m) 11時30分着。障害物が何もない山頂、富士山・白根三山・荒川岳・愛鷹山・天城山。何という贅沢な眺めだろうか。地図上で想像していた光景が寸分の狂いもなく目に入ってくる。(左の写真二枚)

当然の如く昼食と大休止。遠望の山にばかり目が行ってしまいが、間近などところには馬酔木の群れ。

ゆっくりと景色を楽しんでいる内に徐々に水蒸気が多くなり、霞がかかったような景色になってきたので、少々の昼寝を楽しんだ後、12時10分に出発。稜線上を南へ駿河湾に向かってひたすら下って行く。折角の機会なので、フォッサマグナの縁まで走破してみようと言う気になり、薩埵峠を経て長い尾根の終端を味わうことにした。

途中でキラゲを採ったり余裕のある下り道を楽しむと、みかん山の中に入った。14時20分みかん山の下でポンカンの無人販売を100円で購入。下り坂の先には駿河湾、その向こうに天城山。

薩埵峠、その昔は東海道の難所のひとつだったそうだ。安藤広重の絵を思い浮かべながら左手に駿河湾を見下ろす絶壁に沿って下って行く。この絶壁が駿河湾の奥深くまで続いていることを思い浮かべると、地球の壁のひとつの大きさを実感できる。それにしても、こんな所に街道を作ったり、東海道本線を開通させたり、先人の苦労と努力には脱帽するしかない。

興津川の河口近くで海岸線の国道を下り、ほどなく興津駅に到着。時計を見ると15時30分、歩き始めたのが8時35分だから、まざまざのアルバイトの一日だった。

興津発15時44分、三島で新幹線に乗り換えて東京駅へ。

踏 み 跡 <My Mountains>

富士を眺める山として何本かの指に入れても良い素晴らしい山だった。甲府盆地の二月ならまだまだ凍りつく寒さだろうが、駿河の山は太平洋側に面しているせいかもう春が来ている風情だった。

以上